

The Piano Teachers' National Association of Japan
A Corporation

昭和60年6月21日(金)時まさに午後6時
東京都千代田区永田町1 東京の中央に
位置する憲政記念会館において
社団法人 全日本ピアノ指導者協会発会披露宴が
満場の御来賓を迎え開催された。
格調高きその時の模様をお伝えしよう。

会員一人一人の努力と、いつも見守って下さる暖かい多くの人々の目が、これまでの
PTNAピティナを大きくした。

会長ごあいさつ

は た つとむ
羽 田 孜

(衆議院議員)



本日は、皆々様御多忙の中、このように大勢御参集いただき誠に有難うございます。

ここに、社団法人 全日本ピアノ指導者協会が発会致しましたこと、御披露申し上げます。

さて、元文部大臣の坂田道太先生より当協会の会長というお話がありました時、何回も御辞退申し上げましたのですが、結局私が会長をお引受け致しましてから、いつしか9年を迎えます。(編集註、昭和50年10月就任)

この坂田先生は、ピアノに大変御憧憬深い方でして、あの東大紛争の最中に、加藤東大総長と共にピアノを奏でていたという逸話がある位です。もともと、室井摩耶子先生が弾いてらしたのを聞いていたのだとかいう話もありますが…(編集註、坂田道太先生は現在衆議院議長で当協会顧問)

会長になりまして、ピアノコンクールの表彰式や、ピアノの先生方の研修会に顔を出しております内、この会は、大変レベルの高いものだと感じてまいりました。次頁へ

表紙写真：上から、社団法人 全日本ピアノ指導者協会発会祝賀パーティの模様、同席上での羽田 孜会長御挨拶。左丸なかは、門脇加江子(1984年度特級首位)さんの研究演奏会。右、三善晃氏による課題曲公開レッスン、下は同じく溝上日出夫氏の公開レッスン。左下 社団法人 第一回通常総会の模様。右は、蜂谷幸枝女史によるソプラノリサイタルの後、右より中山靖子副会長、伴奏者の今井友子さん、二期会理事長の中山梯一氏、蜂谷幸枝さん、御両親渡辺高之助理事と夫人、御主人の蜂谷氏。

そして、その間、会員の皆様の幅広い活動が、全国にわたって活発化し、ある時期にふと感じましたことは、あまりにも大きな組織になっておったということでした。

そして、いろいろな方の御協力を迎ぐ時、法人格はどうなんですかとよく聞かれます。こんな時、やはりただの任意団体ではいけないのだということに気が付き、文部省の方へ、福田専務理事とお願いに上ったのが、確か5年前だったと思います。(編集註、初訪省は昭和55年2月29日) その間、資産などのむずかしい問題があり、ようやく2年位前より、本格的に文部省の社会教育局の方に御指導いただくようになりました。

この間、なかなかむずかしいものだと思いますことは、どの世界にも派閥がありまして、私どもの国会や政党の中にも派閥があったり、いろいろなことがあって、外から見ると何でそんなことで争っているのだと御理解いただけない面もあるかと思いますが……音楽の世界は、すべてハーモニーでやっていけるものと、思いましたが、(会場笑いにつつまる) そうでもないむずかしいむずかしい問題があったということでした。

その為に困難な道のりを歩まねばならなかったわけですが、私も一つのグループの代表の方とお話したりここにいらっしゃる中山副会長先生、専務理事の福田先生始め代表の役員の方々が、何回か先方の代表の方々と話合れ、お互いに協力していこうではないか、例えば、審査員の交流とか、会員の意見交換などもしていこうではないかということになったわけでした。

だいたい意見の食い違いなどは、誤解に基づくことが多いように思います。話合いの過程では、相当にきつい面もあったようですが、それら、すべてをのり越えて、御案内の通り社団法人として文部省より御認可を得、今日ここに、新たな出発をさせていただくことができた次第でございます。

私ども、社団法人になったからといって、浮かれているわけにはまいません。それだけに多くの方々より見つけられている時で、今こそ会員皆様の肩に、いよいよ大きな責任が、かかっているということを知らされるわ

けでございます。

ピアノをやると申しまして、ピアニストの方、ピアノを指導される方、ピアノを趣味にする方、ピアノ音楽を聴く方、ともかく数多くのピアノ人口がいらっしゃいます。

いつでしたか、ある中庭で外国の大使の方々と食事をしていました折、ショパの音楽が流れてまいりました。どこの国の方だったか忘れましたが、その方は、そのショパンは、どこそこの音楽大学の流れを汲むものだった専門的な演奏スタイルにまで言及されました。

そこまで理解を深められないまでも、ピアノを聞くとうるさいと感じるのではなく、ピアノを聞くことにより、心がなごみ、人間が豊かになるような、すばらしい音楽が奏でられるよう、今こそ、皆さまが本当に結束されて、日本のピアノ教育をよりよいものに向き上げていく必要があるのだと思います。

その為には、指導者の方々に、おおいに研鑽し協力し合っていただくと共に、その研鑽できる良い環境をつくること、お互いに良い意味で競争しあっている空間をつくる必要があり、それを作ることが私どもの使命ではないかと思っております。私は、ピアノにはまったく素人ではございますが、そう言う面で、柳川先生ともども努力していく所存でございます。

実際の指導面での運営は、中山副会長先生始め、今日お集りの会員の皆さまで、会の運営事務上の問題は、福田先生始め皆さま方会員一同一致団結して、ことに当たりたいと思います。

社団法人になりまして、多くの皆様方より御賛助のお申し出を頂き誠に有難うございます。そうした御好意の和をさらに広げ、御好意を無にせぬよう有効に活用し、魅力ある組織にしていく必要があると思っております。

私ども新しい気持で、社団法人 全日本ピアノ指導者協会として、大きくしかも内容ある法人として発展させるために、共に働いていきたいと云うことを申し上げ、また皆さまと誓い合いながら、私の御挨拶を終らせていただきます。本日は誠に有難うございました。

副会長ごあいさつ

中山靖子

(東京芸術大学教授)



皆さま、当協会の社団法人認可の祝賀会に多数御参列いただきましたこと、深く感謝申し上げます。このように多くの方々の暖い御支援をいただくことができましたこと、本当に皆様のおかげと存じております。

当協会19年間の歴史の中で、いろいろなことがございましたでしょうが、これで苦勞が吹きとぶと申しましようか、ただ有難く存じております。

法人設立の趣旨は、羽田孜会長より御説明がございましたとおりでございます。

私事になりますが、私は19年前の創生期に、1年間月に1度づつ、古典より現代期迄の公開レッスンをおたのまれ致しました。その後、いろいろな御縁で、副会長の席をおたのまれた次第でございます。

日頃、東京芸大、桐朋で、音大生徒を指導しております、社会事業と云いますか、社会教育の面では、とまどったこともないではございませんでした。当協会には学校によらない社会での教育に携わっておられる先生方、役員、会員の皆様が大勢いらっしゃる、その方々の生き方を拝見している内に、日本の為に大変有意義なことだと私も解りまして今は、一生懸命この仕事に尽くす所存でございます。

また、社団法人になりましたことにより、その使命は

一層大きくなったと思います。本日も午前中より、全国70近くあります支部の代表の方々による連絡会がございまして、実際の運営につき、熱心に御討議いただきました。皆様が、この仕事を推進することを心からよろこんで参加していらっしゃる御様子を拝見いたしまして、その方々のお陰と存じております。

さて芸術に携わる者として当然のことではございますが、定款にもうたわれておりますように、社会におけるピアノ教育、及び人間教育を進めてまいりたいと存じます。音楽は、音を楽しむと書きますが、それには、良い演奏法により良い音楽を演奏して、先ほど羽田先生が、おっしゃいましたように、心から純粋な美しいものを聞く方にも聞き取っていただけることを目標に、努力することを当協会のモットーとしてまいりたいと存じます。

また運営面におきましても、総務委員とか企画委員、財務委員など、組織を一層強化し、また事務局長を迎え、役員一同渦中の者として、努力してまいる所存でございます。とは申しましても、法人としてはまだ一年生で未熟でございます。どうぞ皆様、御支援御鞭撻くださいましよう、よろしくお願い申し上げます。

本日は誠に有難うございました。



↑役員会：左から下村和子理事、村杉弘理事、中山靖子副会長の挨拶、書記の高木紀子評議員、その前は保田芳郎理事、左手前中井鈴子評議員

↓総会：左から村杉弘議長、中山靖子副会長の挨拶
→祝賀会：さあ乾杯 中山靖子副会長と渡辺高之助理事



↑祝賀会：群馬支部の萩原章事務局長補も乾杯準備



副会長ごあいさつ

柳川 覚 治

(参議院議員)

このピアノ指導者の会を社団法人に致すに当りまして、会長の羽田先生よりぜひ手伝えということで、副会長をおおせつかりました柳川でございます。文部省在職中より、文教・行政問題で、羽田先生にはいろいろと御世話様になりました。

日本の教育は、学校教育から始まっておりまして、文化の面、芸術、スポーツ教育も、学校教育に取り入れられております。その上で、生涯を通じての教育の場があり、日本では、なかなかよい仕組みができております。その一つ、伝統で育った家元制度などは、確かに、日本人の智恵だと思えます。

外からの文化については、自分のものにするのに、100年から200年かかると言われております。日本の文化は、東西文化混交する中で、何かを生み出さねばならず、文化指導の仕組みはどのようにあるべきか、今なお課題がございます。

また、芸術文化について、それはその人が織りなすものでありますから、「芸術文化の指導者である」と言うべきではない、とする意見が、文化庁内にもございます。

そのような中で、このピアノ指導者の会が、20年近くも存続し、全国的な組織を持って、正に法人格を持つに、ふさわしい団体でありながら、今まで任意団体であったと知りましたことは、驚きでもありました。

約三千人の会員をもつこの会が、今ここに社団法人となりましたことに、心からよろこんでいる者の一人でございます。

近く中曽根総理がパリに行かれますが、それに際し「孝堂」という俳号を持たれる藤波官房長官が、「中庭やピアノの調べパリ祭」と詠んだと新聞に出ておりました。

今われわれは、兎の寝床といわれている中に、このピアノを置いておりますが、このピアノがどうもほこりをかぶっております。

先ほど会長が御紹介されました、ある外国に於いてプールのある中庭の奥から、やしの木陰を通して、ピアノの美しい音色を伝え聴くといった体験を、私も致しました。日本も、皆さまがこれを機会に、ピアノの文化を身近な文化として、根付かされるよう祈るものです。

身近なところに美しい音楽があり、身近なところに立派な先生がいる、教わる場があるということが一番大切なことであります。また、子供たちが小さい時に折角身につけたピアノを人前で弾ける、という自信につながる人間の育成のために、先生方が根よく指導していただければ、すばらしい日本の文化が開けると思い、また心から期待するところです。

この法人の発足に際し、今迄エッセ賞による海外派遣によって、若い新進のピアニストたちが育っていったのでありますが、これに加え、ミキモト賞そしてソニー賞が、新たに授かることができました。皆様方の大なる御熱意とお人柄をもって、せつかくの賞が若者に大きな意義をもたらせませう御指導に当られるようお祈りし、また誓い合いたいと思います。

本日は誠におめでとうございました。

社団法人 全日本ピアノ指導者協会発会披露の日、昭和60年6月21日(金)それは長い一日であった。午前中は、参議院会議室での支部連絡会、午後より憲政記念館に移り、役員会、社団法人になってから最初の総会、そして

記者会見、祝賀会と続く。祝賀会には、予定をはるかに越える会員、御多忙の中をかけつけて下さった来賓の皆様方で、立垂の余地もないほど。御祝詞御祝電、お生花をお送り下さった御芳名を右頁に御紹介しよう。

文部大臣官房審議官



澤田道也

(社会教育担当)

先ほど羽田会長より御紹介がありました、この法人格をもつ……その産婆役を務めました文部省社会教育局担当審議官の澤田でございます。

先ほど来のお話にありましたように、この法人は長い間、文部省の中で、エー、何と申しますか、卒直に申し上げて新聞などで御存じのように、公益法人を作りすぎるのではないかと、ことに文部省の中には、休眠法人が多いのではないかと、まあ柳川先生は別格としまして、文部省の者は心臓が小さいものですから、(会場笑い) びびるわけです。

そこへ福田専務理事のような体格のいい方(会場笑い)がせめて来られ、柳川先生羽田先生に叱咤される。そう

言う中でも役所は役所で、だいたい頭の固いところですから、これは、文化と教育、芸術と芸術教育との関りはどうか、或いは、文化庁の方がよいか、社会教育の担当がよいかなど、また先ほど話されました第三との関係はどうかなど、その他数多くの宿題をさし上げそれを見事解決されて今日に至ったわけでございます。その間私どもも世の中の実体というものを勉強させて頂きました。

この会場へまいりまして、ふと思出したことですが前の衆議院議長の福永健司先生でしたか、成田空港で御苦勞された時に、「難産の子は、大きく育つ」ということを言っておられました。(編集記、当時福永氏は運輸大臣)

自分で難産にさせておいて(会場爆笑)誠に申し訳ございませんでしたが、この時期に、この法人の産婆役を務めました私どもが、将来、あの時に産婆役を務めてよかったなあと、そういう日を必ず迎えることを確信し、またお願い致しまして、お祝の言葉とさせていただきます。

〈御祝詞〉

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| 1. 澤田道也
(文部大臣官房審議官) | 5. 中田健
(日本楽器本社営業部長) |
| 2. M・マンズフィールド
(アメリカ大使館大使) | 6. 加藤啓治
(河合楽器本社広報部長) |
| 3. 耿墨学
(中華人民共和国駐日大使館一等書記官) | 7. 永長信一
(財全日本吹奏連盟理事長) |
| 4. 多田正遠
(エッソ石油広報部長) | 8. 湯山昭
(作曲家)
(敬称略) |

〈生花スタンド〉

1. 音楽之友社
2. 月刊「ショパン」
3. 日本楽器製造株式会社
4. 日本ピアノ教育連盟 (敬称略)

〈御祝電〉

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1. 宇都宮成一
(財日本ピアノ調律士協会) | 8. 松田藤子
(作陽音大学長) |
| 2. 大賀典雄
(ソニー社長) | 9. 安田久実子
(四国女子短大教官、徳島支部) |
| 3. 越智道夫
(前衆議院議員) | 10. 保田美智子
(徳島支部) |
| 4. 小坂徳三郎
(衆議院議員) | 11. 渡辺精二
(日本楽芸社々長) |
| 5. 酒井諄
(相愛音大音楽学部長) | 12. 北九州支部 |
| 6. 鈴木俊一
(東京都知事) | 13. 長崎支部一同 |
| 7. 寺田定英・悦子
(寺田石油社長) | 14. 広島推進会 |
- (以上 アイウエオ順 敬称略)

KAWAI

本社 ■ 浜松市寺島町200
☎ <0534>57-1317

サロンに、デビュー。

カワイ・サロン・コンサートピアノ

RX-A—Ryuyo Excellence A.

音楽芸術の表現に供する楽器もまた、芸術の領域にあるもの
と考える竜洋工場付属研究所のスタッフが
フルコンサートピアノ研究の成果を結集した新設計です。
音の伸び、音量、音色、バランス、タッチ感…など
コンサートピアノに求められる高い性能を
そのまま奥行197cmのグランドピアノに授けました。

コンサートピアニストのために

表現の可能性を豊かに秘めて
芸術としてのピアノを追求するカワイから——。

サロン・コンサートピアノ

RX-A

88鍵/7 $\frac{1}{2}$ オクターブ/高さ=101cm/間H=152cm/奥行=197cm/総重量=340kg/アリコート方式/鍵盤=象牙・黒檀/3本ペダル(ソステヌートつき)/黒艶仕上げ
現金価格=3,300,000円 免税価格=2,805,000円



株式会社 河合楽器製作所

アメリカ合衆国在日大使館

大使 マイク・マンズフィールド

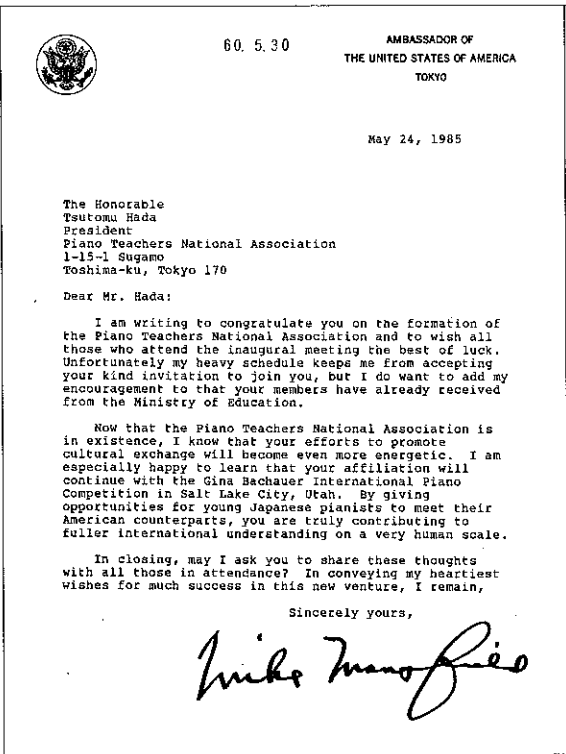


大使の伝文を読み上げる二宮裕子評議員

羽田会長殿

私は、社団法人全日本ピアノ指導者協会に御出席の皆様とあなたにおめでとうございまして申し上げます。残念ながら私の過密なスケジュールのため本日出席できませんが、私は文部省からすでに認可された貴方方の会へ応援をお送り致します。

ここに至り、PTNAは国際交流の面でも、より一層の向上をはかられている事を私は伺って居ります。私が特に喜びと致しますところは、ユタ州のソルトレイクシティで開かれるジーナバックアワー国際コンクールとの提携を今後も続けられるということです。日本の若いピアニストがアメリカで同じ様な若者と交流が出来るという場を持たれるということは、真に国際友好発展を深めるために貢献されると思います。



終りに御出席のすべての皆さまと共にこれらのことをわからあわせていただけたらと存じます。それと同時にPTNAの御発展と御成功を心よりお祈り申し上げます。(和訳・伝文 二宮裕子)

アメリカ合衆国大使 マイク・マンズフィールド

中華人民共和国 在日大使館

こう ぼく がく

文化担当一等書記官 耿 墨 学

発会総会の御招待、心から感謝するとともに、社団法人として発足し慶賀の意を表したいと思います。

貴協会は、19年間において、ピアノ教育の面で大きな功績を治め、中国との交流も重視してきました。去年と、又今年12月には、ピアニスト杜宇武を招聘するなどしてありますが、必ずやこれがピアニスト間の友情を深め、ま

社団法人全日本ピアノ指導者協会発



た、おたがいのレベルを学び合い、高め合うことを望みます。

これからは、社団法人になりより御発展され、中国とピアニストばかりでなく、音楽の協会などとの交流も、盛んになるよう希望いたします。

(耿墨学氏は実に流暢な日本語で笑いを混じえ祝詞を述べられた)

披露祝賀会・於 憲政記念館 (役員会 通常総会 記者会見)

支部連絡会—参議院議員会館

支部連絡会

● 全国の支部からのお集まりとあって、すごい熱気ともり上がりをみせた。



● 沖縄の先の宮古島よりいらして下さった宮古支部代表



日本全国に広がるピティナの輪



● 当日、司会をつとめて下さった 高知県支部の住友氏



● 三多摩支部代表



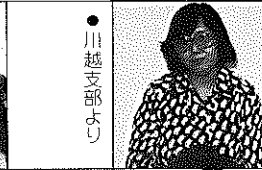
● 福山支部の代表



● 舞鶴支部の代表



● 姫路支部の代表



● 川越支部より



● 栃木県支部の皆さん方



● 新しく発足した和歌山県支部の代表

● 大勢の皆さまにお越しいただきまして、心よりお礼申し上げます。

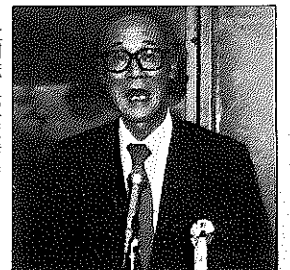


「本当におめでとう！」

感動の一瞬



● 社団法人吹奏楽連盟の会長の御祝辞



記者会見・役員会



昭和60年度第1回通常総会

これからの日本のより良いピアノ音楽教育を担っていくピティナ。いま読んで下さっている貴方が、あればこそピティナがあります。皆さん1人1人のお力が、子供達により影響を与え、そうすることでいま、いらしゃる地域が高まってゆき、さらに、日本の文化が上がっていることになると思います。



披露祝賀会

ピティナの発展と結束を願って、かんぱい!

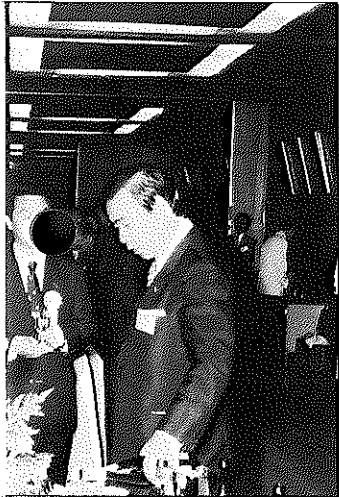
「かんぱい！」
渡辺高之助理事より



●中山晴子副会長、黒のドレスがよくお似合いでいらっしやいました。



司会の渡辺成哉氏。お声がとても素敵でした



「千葉支部は、如何ですか。」
「八王子支部は、如何ですか。」

●美女集令、ピアノリストの牧野彌評議員のお顔もうしろに見えます。



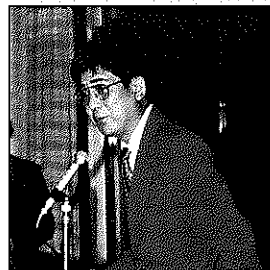
●あれ、どこかで拝見したてこのあるお顔。俳優の滝川哲朗氏と内野良子評議員の御主人さま。



作田琴
中山晴子氏の御挨拶



株式会社カワチ楽器の方の御挨拶



日本楽器株式会社の方の御挨拶



エーソンの広嶋部長でもあんなに理事の御挨拶

●羽田会長、中山副会長をかこんで



●お祝いにかけてつけて下さった方々で会場は、いっぱい。



林秀光理事他 ピティナの会員の皆さま



御本先生と
福田専務理事



ピティナの将来をお話中

☆ 8月28日中央会館 6時よりピティナヤングピアニストコンペティション 祝賀パーティーがあります。
又、是非お集まり下さい！

社団法人 全日本ピアノ指導者協会、支部役員表

支部名	新潟支部	八王子支部	前橋支部	北摂支部	和歌山支部
支部長	佐藤峰雄	落合絵(名誉) 海老原あみ子	斎藤 民	内海 啓	三輪桂子 出口美智子(副)
実行委員長	須貝和氣三	海老原あみ子	高橋絹子	武佐秀美	山東越子・竹内節子
長補	笹谷裕子		萩原 章	松葉武夫	
企画	堀川雅司	坂本和子 海老原あみ子	大沢精市	松原欣也	小島時栄
広報	須貝和氣三 堀川雅司	坂本和子 松井ほづみ	大島美枝子	松原欣也 武佐秀美	森 淳子(書記)
財務	笹谷裕子	海老原あみ子	二瓶富子	武佐秀美	阪上 育
顧問		草野政真		鈴木正幸 西元和子	岩橋フタミ 監事 桂水 弥生
支部名	舞鶴支部	香川支部	徳島支部	高知県支部	鹿児島支部
支部長	市川直子 小島早苗(副)	久末てる子	保田芳郎 保田美智子(副)	森洋洋子 森本みどり(副)	坂本京子 黒木富美子(副)
実行委員長	馬場洋子	池川礼子	上田和子	住友弘一	市来貴子
長補	桑原昌子	川野賀洋子	井下洋子 松前フサ子	山内るり・小松紀佐子 西山文子・住友カマリ 西村雅子・西村真由美 片岡美貴・片岡典子 岡田正子・吉岡勢津子	宮崎治生
企画	竹内晴代 藤澤真理子	長岡真琴・芦沢裕子 三銀美智子	黒崎善夫 吉岡明代		中原博子・佐々木信和
広報	諸橋よしみ・尾崎安子 井関経子(補)	藤明久子・大西さよ子 泉谷早苗	安田久実子		馬渡浩子 田頭三子
財務	阿部素美	大堀裕子 壁川孝子	松尾久恵		新村宏子 大山恵美子
顧問	中井鈴子	武田宏子 細田淑子		丸山和雄・橋本恋佳 竹村 勲	宝木多加志 。 雅子

☆七月二十日までにお送りいただいた分です

おさらい会のお写真などは是非どうぞ
写真は、フォトグラファアの及川さんより御寄付いただきました。
03(903)0694